

8  
ヨシユア  
聖徒伝 66

# 「信頼すべきは 主の約束」

ヨシユア記23～24章

ヨシユアの遺言

## 【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

I. ヨシュアの遺言 23章

II. ヨシュアの死 24章

III. まとめと適用

確定した滅びの結末  
私たちの希望の根拠



増水期のヨルダン川 1900年頃

【シェケムか？ ベテルか？】

■ アブラハムの約束の地での最初の礼拝地は？

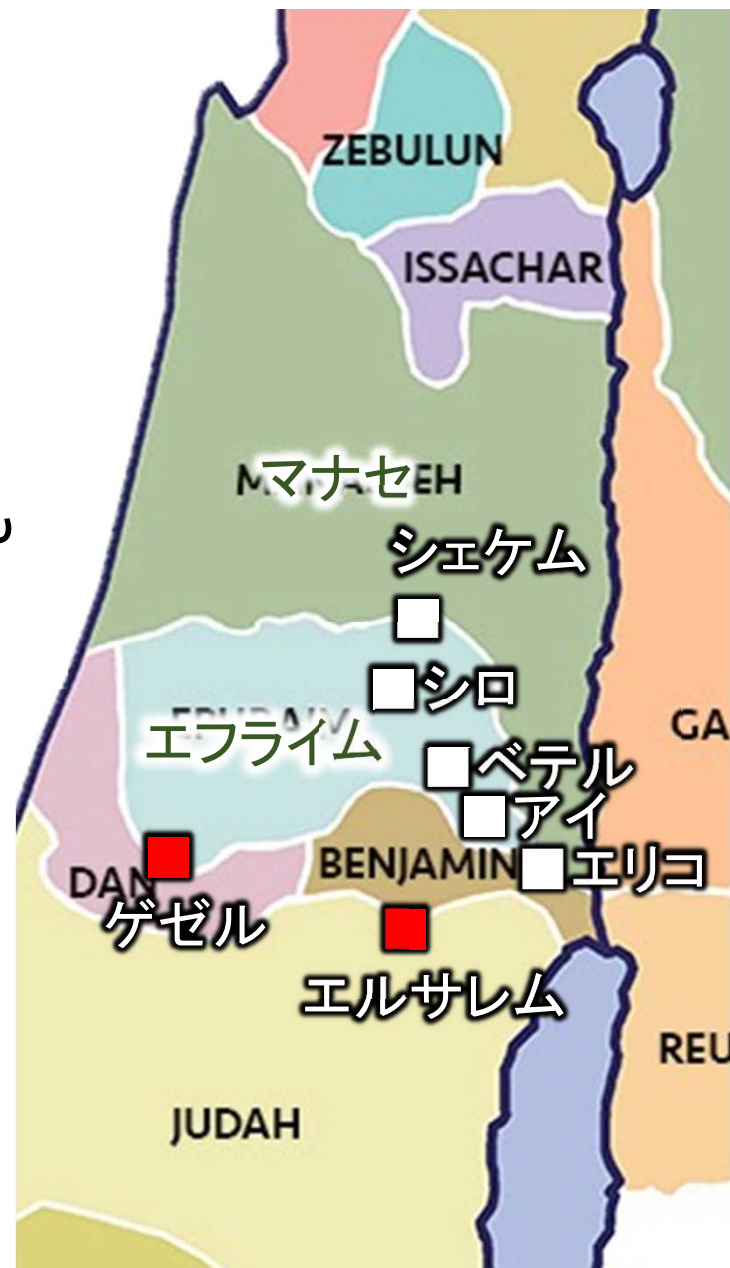
創世記12:7では、シェケム！！

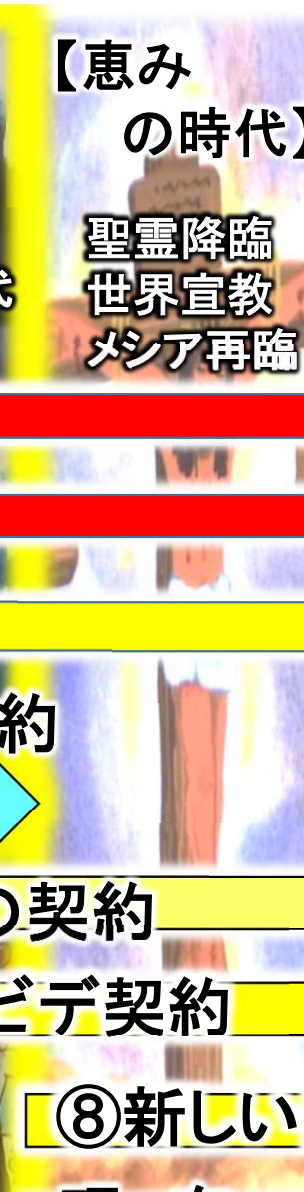
創世記13:3では、ベテル(とアイの間)！！

■ アブラハムが実際に滞在したのはシェケムの町でもベテルの町でもなく、誰のものでもない荒野。

■ おそらく、この地域を広くはシェケム、狭くはベテルと呼んでいたのだろう。

➡ 最初の礼拝地は、シェケムでもベテルでもOK  
十勝と呼ぶか、鹿追と呼ぶか。そんな違い？！  
千葉にあるけど、東京ディズニーランドとか。





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

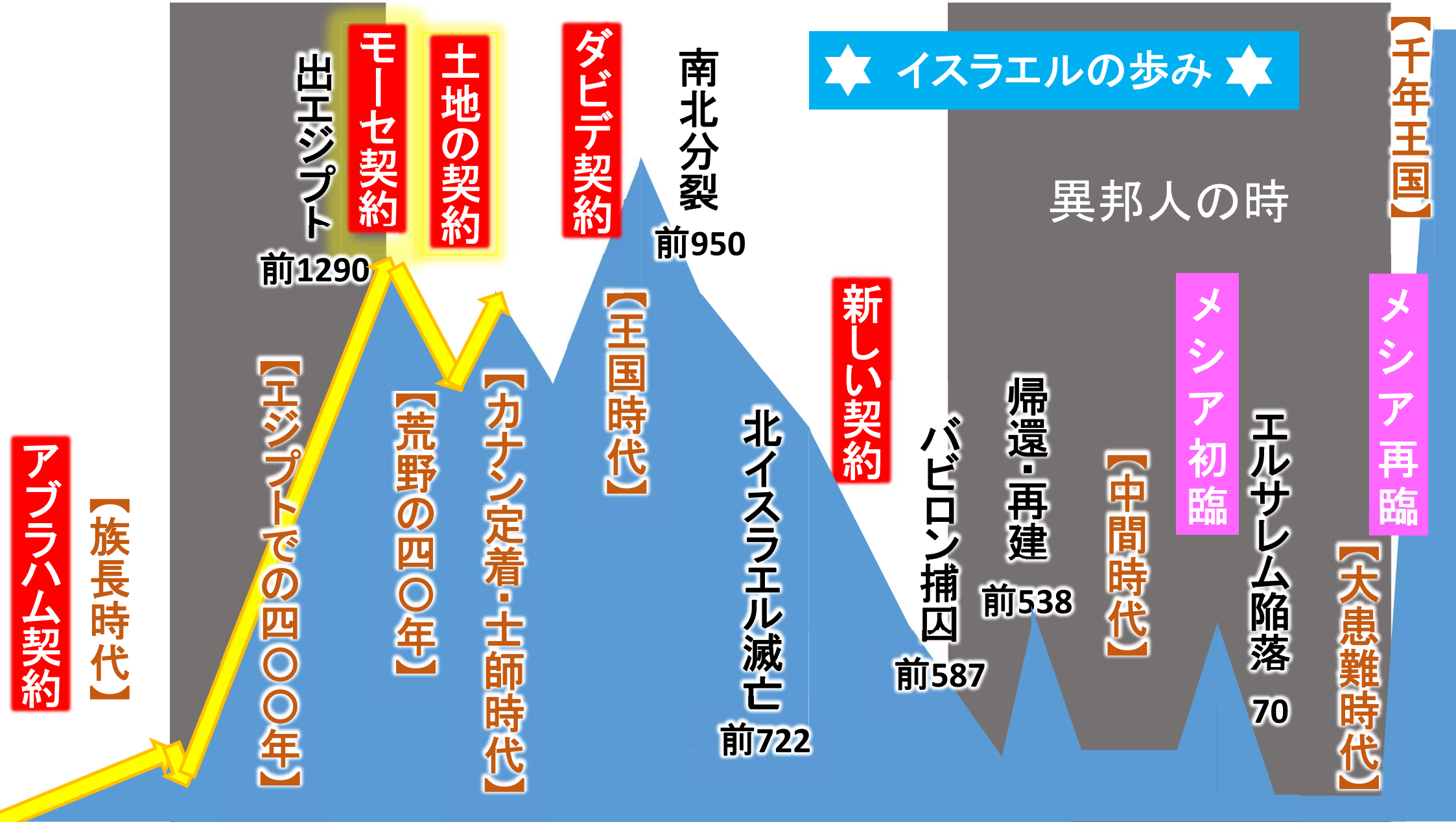
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡  
前722

新しい契約

バビロン捕囚  
前587

帰還・再建  
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落  
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂  
前950

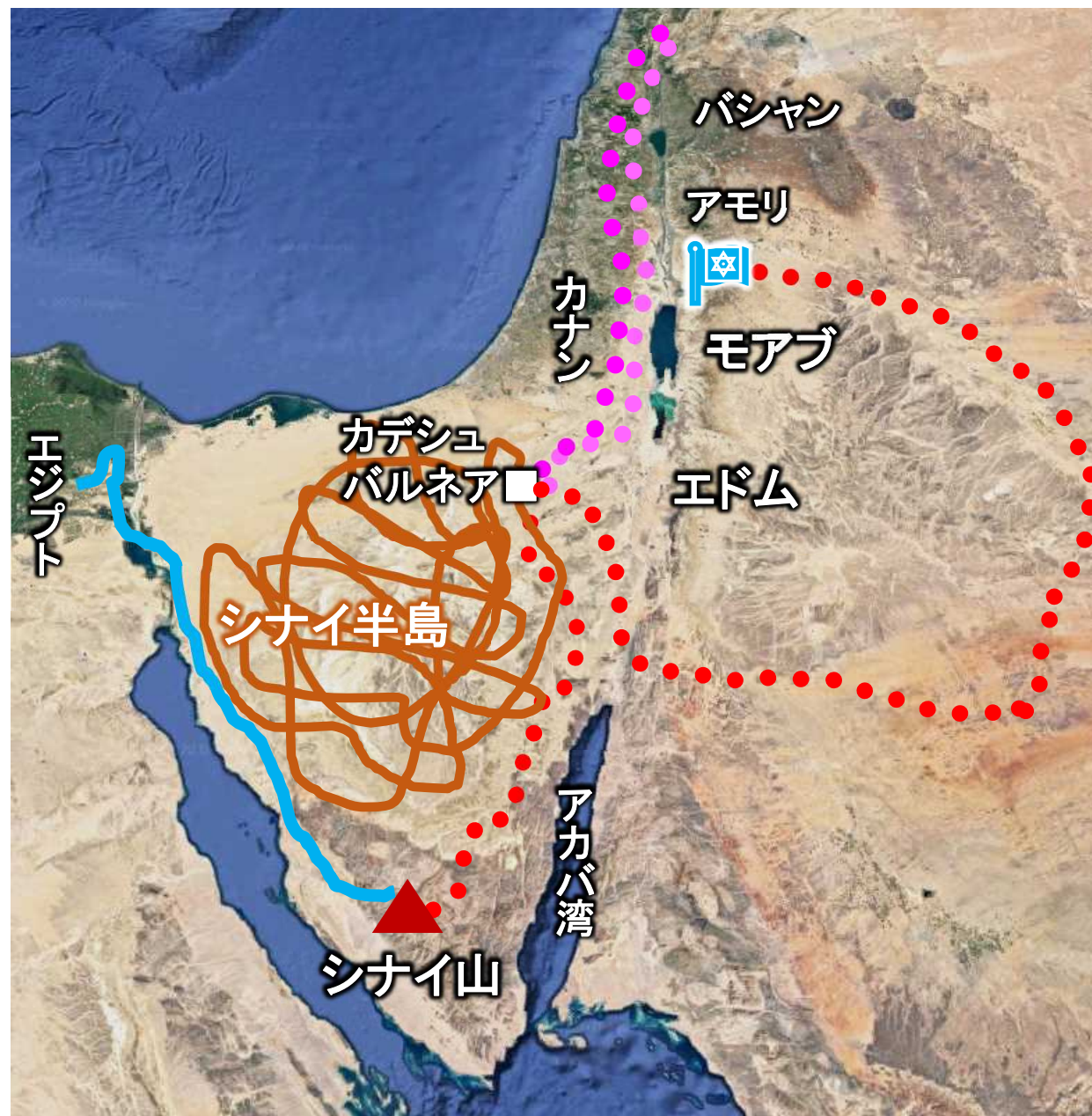
## 【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



## 【戦術的に見る、カナン征服戦争】 1～13章

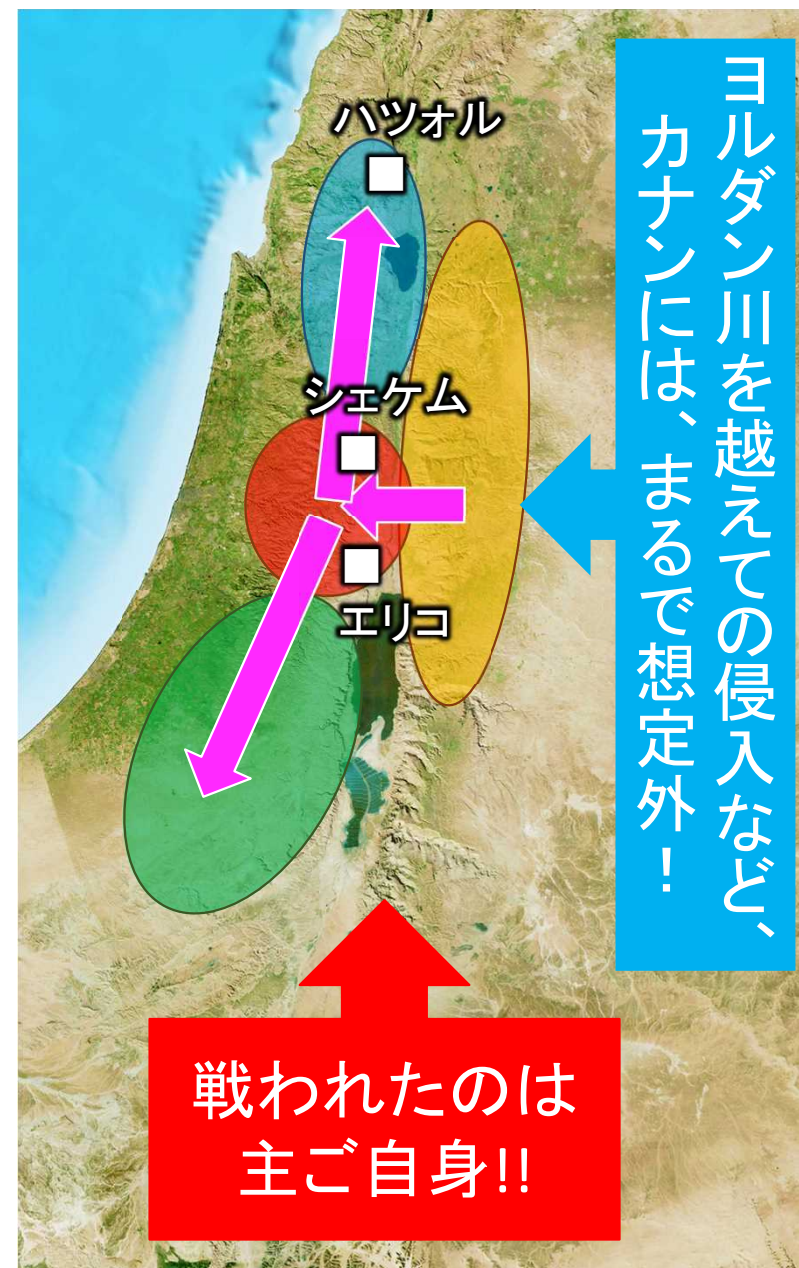
■ カナンの戦いは基本的に攻城戦。

城壁で囲まれた町々を攻略していった。

➡ 通常、膨大な戦力と物資、時間が必要。  
前の砦を落とさなければ、進めない。

■ イスラエルの進軍ルート

- ① ヨルダン川東部 ➡ 後顧の憂いをなくす
- ② 中央部 ➡ 干上がったヨルダン川を渡り、  
不意を突き、最大勢力を撃破  
中央部を押さえ、敵勢力を分断
- ③ 南部 ➡ 南部の諸民族を撃破
- ④ 北部 ➡ 北部の諸民族を撃破



## 【残された地】

- アブラハムに約束された地は、南はナイルの支流から、北は、ユーフラテスに至るまで
- ヨシュア率いるイスラエルが占領したのは、約束の地のごく一部。  
➡ その中にすら、多くの未占領地が。

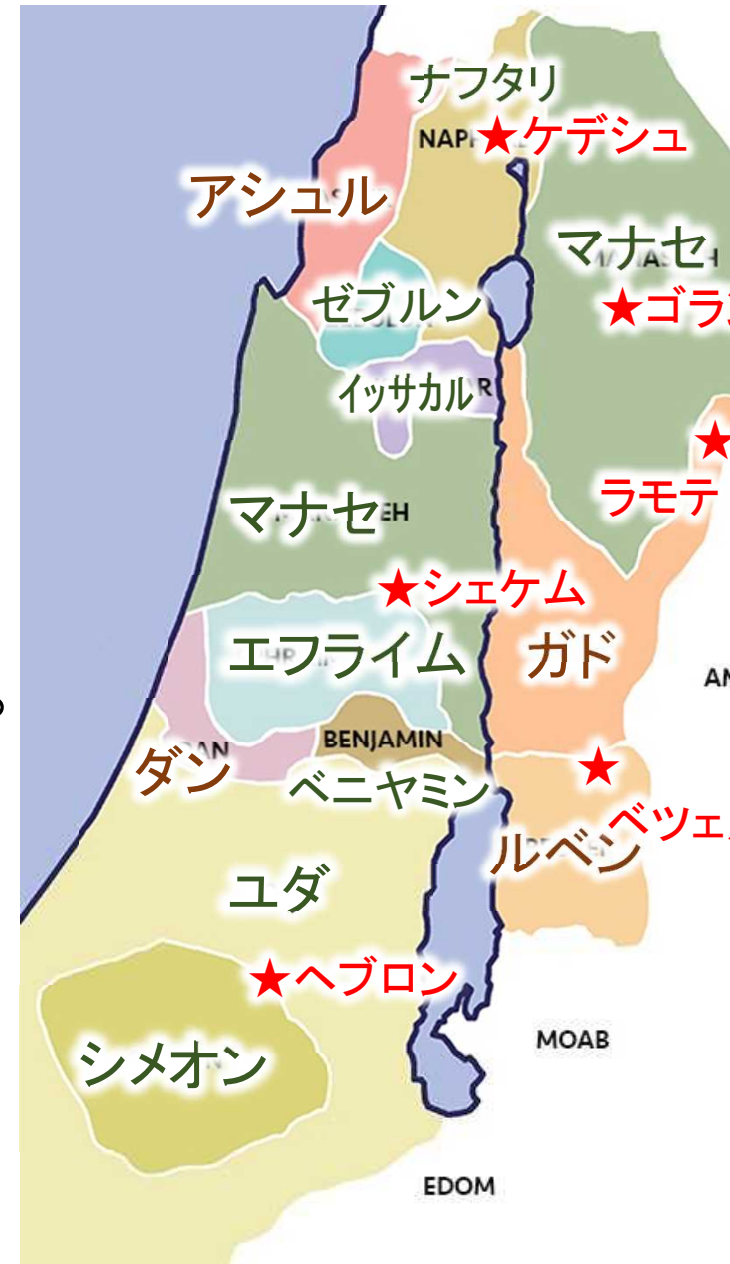
すべてを支配するのは、千年王国において





## 【割り当てられた相続地】

- 14章以降、相続地の分割が記される。  
12部族それぞれに、分割地が定められた。
- レビ族だけは例外。祭司や奉仕者として、  
神に直接仕えるレビ族には、神ご自身が嗣業。  
各部族の中に町と放牧地が点々と与えられた。
- 6つの「逃れの町」が定められた。  
故意でなく殺人を犯した者に救いの道が。  
➡ 時の大祭司の死によって、罪が赦された。  
➡ 真の大祭司メシアの救いの型となるもの。



# I. ヨシュアの遺言

ヨシュア記23章

ヨシュアの相続地



【人々を呼び寄せるヨシュア】 ヨシュア23:1~2  
【主】が、周囲のすべての敵からイスラエルを守って安息を与えられてから、\*多くの日がたち、  
ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。  
ヨシュアは全イスラエル、その長老たち、かしら  
たち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せて彼  
らに言った。「私は年を重ねて老人になった。」

- モーセの後を継いで30年。ヨシュア110歳。  
\* 未占領地が残り、戦いもあった。ここでの強  
調は、主が守り、安息を与えられたということ。
- クリスマンにも、日々の信仰の戦いの一方、  
主の守りの内に与えられている平安がある。



## 【戦われたのは主】 ヨシュア23:3～4

あなたがたは、自分たちの神、【主】が自分たちのために、これらすべての国々に行ったことをすべて見てきた。あなたがたのために戦ったのは、あなたがたの神、【主】である。

見よ。私はヨルダン川から日の入る方の大海まで、これらの残っている国々と、すでに私が絶ち滅ぼしたすべての国々を、相続地としてあなたがたの部族にくじで分けた。

■戦われたのは主。土地を分配されたのも主。

➡自分たちの力ではない。第一に強調！！



## 【イスラエルの第一の責務】 ヨシュア23:5～7

あなたがたの神、【主】ご自身が、彼らをあなたがたの前から追い払い、あなたがたの目の前から追い出される。\*あなたがたの神、【主】があなたがたに告げたように彼らの地を占領しなさい。

また、モーセの律法の書に記されていることを、ことごとく断固として守り行いなさい。\*そこから右にも左にも外れず、これらの国々、あなたがたの中に残っている、これらの異邦の民と交わらないようにするためである。

\* 継続される戦いも、主ご自身が戦われる。

\* **イスラエルの第一の責務は、律法を守り行うこと!!**



## 【偶像礼拝の禁止】 ヨシュア23:7~8

彼らの神々の名を口にしてはならない。それらによって誓ってはならない。それらに仕えてはならない。それらを拝んではならない。ただ今日までしてきたように、あなたがたの神、【主】にすがりなさい。\*

■ カナンでのイスラエルの最大の誘惑が偶像礼拝。

■ 偶像は、人々の欲望に働きかけ、魅惑する。

・ 現代的な偶像とは？

・ 真実の神なき人間の創作物は、どんなものも容易に偶像に変質する。

\* 神にすぎるとは、全身全霊で主を信頼すること。

➡ 主にすべての命運を委ねて、使命に生きる。



【ただ主を愛せよ】 ヨシュア23:9～11

【主】は、大きくて強い異邦の民をあなたがたの前から追い払われた。だから今日まで、あなたがたの前に立ちはだかることのできる者は、一人としていなかった。あなたがたは一人で千人を追うことができる。あなたがたの神、【主】ご自身が、あなたがたに約束したとおり、あなたがたのために戦われるからである。だからあなたがたは自分自身に十分に気をつけて、あなたがたの神、【主】を愛しなさい。

■主に従う限り、主の民を阻める者などいない。

■常に求められるのは、信仰の吟味。従順の確認。

➡愛するとは、積極的な選択。



## 【敵が戒めに変わるとき】 ヨシュア23:12～13

しかし、もしも、あなたがたが再び墮落して、これらの異邦の民の生き残っている者、すなわち、あなたがたの中に残っているこれらの者たちと親しく交わり、彼らと姻戚関係に入り、あなたがたが彼らの中に入って行き、彼らもあなたがたの中に入って来ることがあれば、あなたがたは、このことをしっかりと知らなければならない。あなたがたの神、【主】は、もはやこれらの異邦の民をあなたがたの前から追い払われぬ。彼らはあなたがたにとって、罾となり、落とし穴となり、あなたがたの脇腹にむちとなり、あなたがたの目にとげとなる。そして、あなたがたは自分たちの神、【主】がお与えになったこの良い地から滅び失せる。

■滅びの民と交われば、己に滅びが降りかかる。






## 【祝福と呪いの宣言①】 ヨシュア23:14

見よ。今日、私は地のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたがたは心を尽くし、いのちを尽くして、知りなさい。あなたがたの神、【主】があなたがたについて約束されたすべての良いことは、一つもたがわなかったことを。それらはみな、あなたがたのために実現し、一つもたがわなかった。

\* 主の約束は、一つもたがわなかった。

■ それゆえ、主の約束への絶対的信頼が求められる。

■ 主の裁きは正しく、誰も言い逃れをする余地はない。



従順には祝福  
背教には呪い  
神の報いは  
正確に下る



## 【祝福と呪いの宣言】 ヨシュア23:15～16

あなたがたの神、【主】があなたがたに約束されたすべての良いことが、あなたがたに実現したように、【主】はまた、すべての悪いことをあなたがたにもたらし、ついには、あなたがたの神、【主】がお与えになったこの良い地からあなたがたを根絶やしにされる。

主があなたがたに命じられた、あなたがたの神、【主】の契約を破り、行ってほかの神々に仕え、それらを拝むなら、【主】の怒りはあなたがたに対して燃え上がり、あなたがたは、主がお与えになったこの良い地から速やかに滅び失せる。」



# Ⅱ. ヨシュアの死

ヨシュア記24章



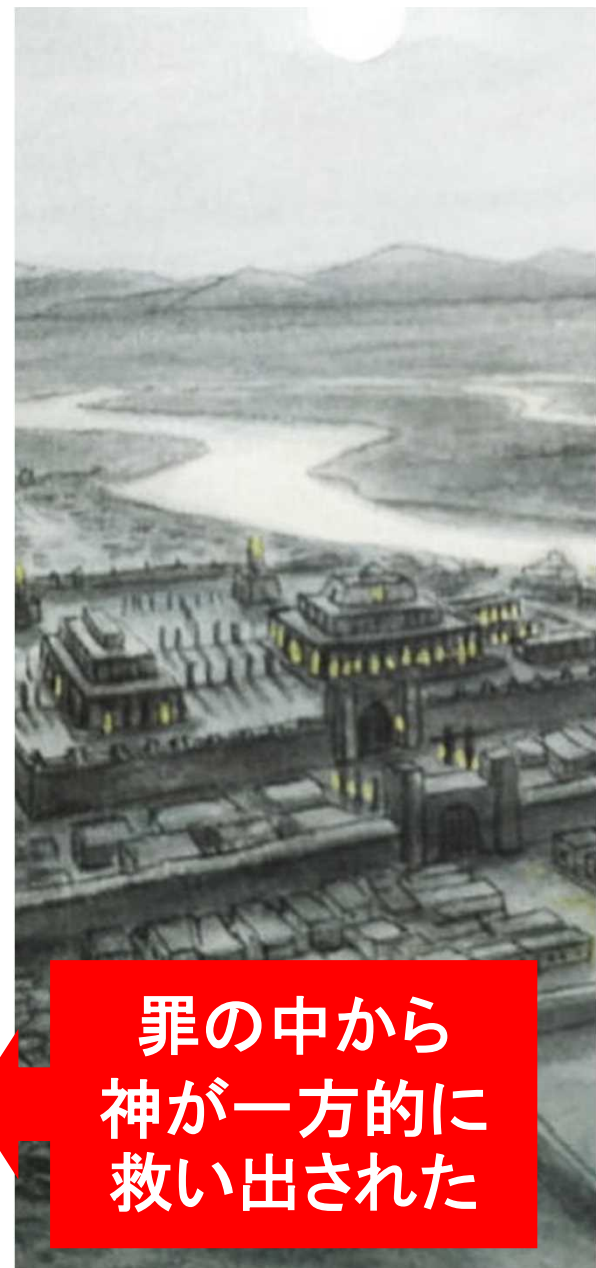
ゲリジム山とシェケムの町

## 【確認されるルーツ】 ヨシュア24:1～3

ヨシュアはイスラエルの全部族をシェケムに集め、イスラエルの長老たち、かしらたち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せた。彼らが神の前に立ったとき、ヨシュアは民全体に言った。「イスラエルの神、【主】はこう告げられる。『あなたがたの父祖たち、アブラハムの父でありナホルの父であるテラは昔、ユーフラテス川の向こうに住み、ほかの神々に仕えていた。

わたしはあなたがたの父祖アブラハムを、あの大河の向こうから連れて来てカナンの全土を歩かせ、子孫を増し、イサクを与えた。

\* 偶像礼拝の罪の中から民族の歩みは始まった。



罪の中から  
神が一方的に  
救い出された

## 【出エジプト～荒野の40年】 ヨシュア24:4～7

そして、わたしはイサクにヤコブとエサウを与え、エサウにはセイルの山地を与えてそれを所有させた。一方、ヤコブと彼の子たちはエジプトに下った。

わたしはモーセとアロンを遣わし、エジプトに災害を下した。わたしがそのただ中で行ったとおりである。その後、わたしはあなたがたを導き出した。

わたしはあなたがたの父祖たちをエジプトから導き出した。あなたがたが海まで来たとき、エジプト人は、戦車と騎兵であなたがたの父祖たちを葦の海まで追いつめた。彼らは【主】に叫び求め、主はあなたがたとエジプト人の間に暗闇を置き、海に彼らを襲わせ、彼らをおおわせた。あなたがたの目は、わたしがエジプトで行ったことを見た。そして、あなたがたは長い間、荒野に住んだ。



主がイスラエルを  
導き出し  
イスラエルは  
主を知った

## 【退けられたバラクとバラムの策略】 ヨシュア24:8～10

わたしは、ヨルダンの川向こうに住んでいたアモリ人の地に、あなたがたを導き入れた。彼らはあなたがたと戦ったが、わたしは彼らをあなたがたの手に渡し、あなたがたは彼らの地を占領した。わたしはあなたがたの前から彼らを一掃した。

モアブの王、ツイポルの子バラクは立ってイスラエルと戦い、あなたがたを呪うために、人を遣わしてベオルの子バラムを呼び寄せた。

しかし、わたしはバラムに耳を傾けようとしなかった。彼はかえって、あなたがたを祝福し、こうして、わたしはあなたがたをバラクの手から救い出した。

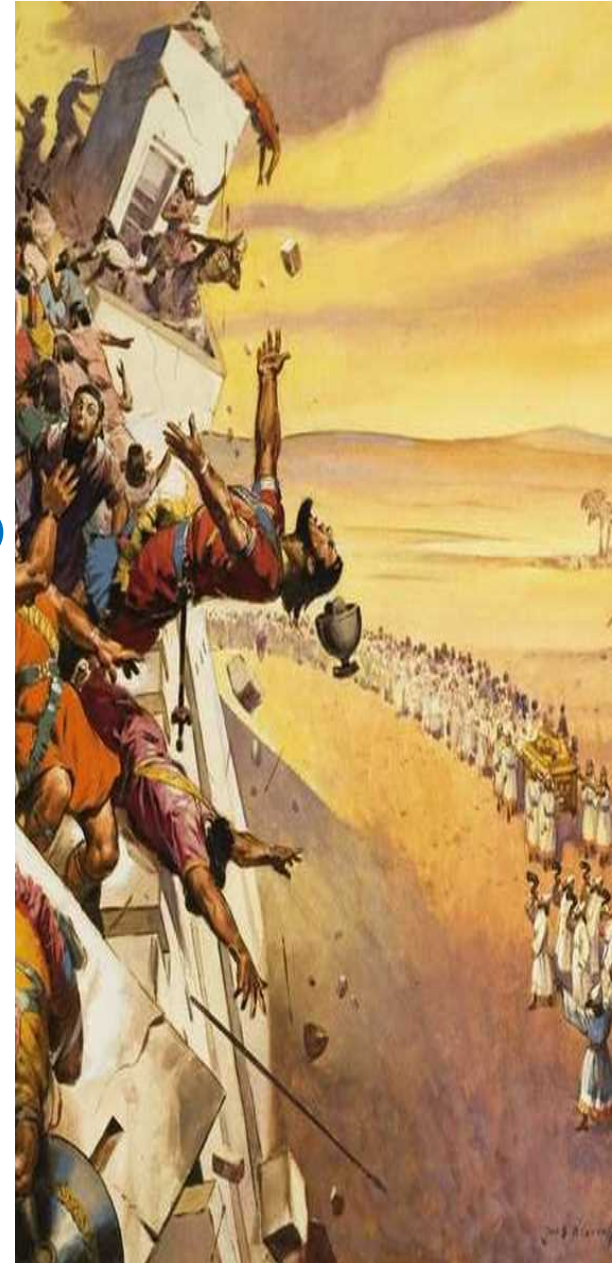


【主が、民に約束の地を与えた】 ヨシュア24:11～13

あなたがたはヨルダン川を渡り、エリコに来た。エリコの住民やアモリ人、ペリジ人、カナン人、ヒッタイト人、ギルガシ人、ヒビ人、エブス人はあなたがたと戦った。

しかし、わたしは彼らをあなたがたの手に渡し、あなたがたの前にスズメバチ(「恐怖」新共同訳)を送ったので、スズメバチがアモリ人の二人の王をあなたがたの前から追い払った。あなたがたの剣にもよらず、あなたがたの弓にもよらなかった。


わたしは、あなたが労したのではない地と、あなたが建てたのではない町々をあなたがたに与えた。あなたがたはそこに住み、自分で植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑から食べている。』



## 【真実の神か、偶像か】 ヨシユア24:14～16

今、あなたがたは【主】を恐れ、誠実と真実をもって主に仕え、あなたがたの先祖たちが、あの大河の向こうやエジプトで仕えた神々を取り除き、【主】に仕えなさい。【主】に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は【主】に仕える。」

民は答えた。「私たちが【主】を捨てて、ほかの神々に仕えるなど、絶対にあり得ないことです。」



私は信じる  
私は仕える  
自発的決断が  
信仰の基本



## 【イスラエルの民の信仰告白】 ヨシュア24:17～18

「私たちの神、【主】は、私たちと私たちの先祖たちをエジプトの地、奴隷の家から導き上げられた方、そして、私たちの目の前であの数々の大きなしるしを行い、私たちが進んだすべての道で、また私たちが通ったあらゆる民の中で、私たちを守ってくださった方だからです。【主】はあらゆる民を、この地に住んでいたアモリ人を私たちの前から追い払われました。私たちもまた、【主】に仕えます。このお方が私たちの神だからです。」

### ■イスラエルのヤハウエへの信仰告白。

主なくして私はいない。主以外に神はいない。



エバル山(手前)  
ゲリジム山(奥)

## 【イスラエルの背教の予告】 ヨシュア24:19～21

ヨシュアは民に言った。「あなたがたは【主】に仕えることはできない。主は聖なる神、ねたみの神であり、あなたがたの背きや罪を赦さないからである。

あなたがたが【主】を捨てて異国の神々に仕えるなら、あなたがたを幸せにした後でも、主は翻って、あなたがたにわざわいを下し、あなたがたを滅ぼし尽くす。」

民はヨシュアに言った。「いいえ。私たちは【主】に仕えます。」

できますと言って、できないのが、罪ある人の現実

- イスラエルの背きは、土地の契約(申29章)で、すでに予告され、ヨシュア任命の際にも告げられた。
- 知っているはずのイスラエルは、これを拒む。



エバル山(手前)  
ゲリジム山(奥)

## 【明確にされた責任】 ヨシュア24:21～24

民はヨシュアに言った。

「いいえ。私たちは【主】に仕えます。」

ヨシュアは民に言った。「【主】を選んで主に仕えることの証人はあなたがた自身です。」

彼らは「**私たちが証人です**」と言った。

「今、あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、イスラエルの神、【主】に心を傾けなさい。」

民はヨシュアに言った。「**私たちの神、【主】に仕え、主の御声に聞き従います。**」

■イスラエルは、主の前に確かに誓い、宣言した。



呪いの山  
エバル山から

## 【民と神との再契約】 ヨシュア24:25～26

ヨシュアはその日、民と契約を結び、シェケム\*で彼らのために掟と定めを置いた。ヨシュアはこれらのことばを神のみおしえの書に記し、大きな石を取り、【主】の聖所にある櫟の木の下に立てた。

- \* アブラハムが最初に祭壇を築いた地(創12:6)  
シェケム虐殺事件の後、  
ヤコブが偶像を捨てさせた(創35:4)  
祝福と呪い、律法の碑が建てられた(申11章)

- 王なる神と臣民であるイスラエル。  
宗主権契約の形で、契約が結ばれる。



## 【石に刻まれた永遠の契約】 ヨシュア24:27~28

ヨシュアは民全体に言った。「見よ、この石は私たちに  
対して証しとなる。この石は、【主】が私たちに語られた  
すべてのことばを聞いたからである。あなたがたが自  
分の神を否むことがないように、これはあなたがたに  
対して証しとなる。」

ヨシュアは民をそれぞれ自分の相続地に送り出した。

\* 木の下に立てた石が、この契約のしるしとなった。

➡石に刻まれた律法は、永遠の契約。

■「この人たちが黙れば、石が叫びます。ルカ19:40」

...エルサレム入城の時のイエスの警告。

➡メシアの来臨を告げたのは、石に刻まれた律法。

私たちの信仰は、  
遣わされた日々の中  
で問われる

ゲリジム山頂から見た  
シェケムの町



## 【ヨシュアの死】 ヨシュア24:29

これらのことの後、【主】のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。

人々は彼をガアシユ山の北、エフライムの山地にある、彼の相続地の領域にあるティムナテ・セラフに葬った。ヨシュアがいた間、また、【主】がイスラエルのために行われたすべてのわざを経験して、ヨシュアより長生きした長老たちがいた間、イスラエルは【主】に仕えた。

- 小さな相続地の片隅に、ヨシュアの遺体は葬られた。
- ヨシュアを通して現れた、主の御業を知る世代が  
生きている間、イスラエルは主に仕え続けた。  
→ 人の罪を思い知る者には、驚くべきこと!!



民の心に刻まれていた  
ヨシュアの願い

## 【葬られたヨセフの遺骸】 ヨシユア24:32～43

イスラエルの子らがエジプトから携え上ったヨセフの遺骸は、シェケムの地、すなわち、ヤコブが百ヶシタでシェケムの父ハモルの子たちから買い取った野の一面に葬った。そこはヨセフ族の相続地となっていた。アロンの子エルアザルは死んだ。彼は、自分の子ピネハスに与えられた、エフライムの山地にあるギブアに葬られた。

\* 約束の地に葬られたヨセフの遺骸(ミイラ)

■ 約500年前のヨセフの願いが果たされた。

➡ 神の約束の確かさを刻む。一つの出来事。



## Ⅲ. まとめと適用

確定した滅びの結末  
私たちの希望の根拠

ゲリジム山・エバル山・シェケムの町



【予告されていたイスラエルの背教・確定した将来へ向かってどう歩むか】

- イスラエルの背教と神の裁きは、モーセ、ヨシュアを通して予告済み。  
人には変えられない、主が確定された将来がある。
- それでも、ヨシュアを知る世代は、主に仕え続けた。  
問われるのは、あくまでも一人一人の信仰。主体的な神への応答。
- 世の終わりの結末は、聖書には明らか。この世はますます悪くなり、  
北方からのイスラエル侵略、世界政府、反キリストの誕生へと続く。
- 一方で、常に問われるのは、私たち一人一人の信仰者の歩み。  
主に従う者には、なお恵みと平安があり、日々の必要は満たされる。

## 【ヨシュアの宣言に教えられる、ヨシュアの信仰】

■ 民の行く末の背教をを知らながら、ヨシュアは宣言した。

「私と私の家族は、主に仕える」と。

■ イスラエルのすべての青年男子は、ヨシュアの言葉を胸に刻んだだろう。

■ 家長たる男性が、まずへりくだって主に仕え、家族を愛し導くならば、家族もまた、主に仕えるようになっていく。ヨシュアは身をもって示した。

■ 信仰は、他の誰でもない、私自身から常に問われ、始まっていく。

## 【今一度ヨシュアに学ぶ、私たちの希望の根拠】

- 子孫の背教を知りながらも、ヨシュアの主への信頼は揺るがなかった。  
繰り返してきたイスラエルの罪と、それにも関わらず民を導かれ続けた  
主の憐れみの深さを、ヨシュアはとことん味わわされ尽くしただろう。
- 主の約束は、一つも違わず実現した。将来の約束も完全に実現される。  
その確信をもって、平安の内にヨシュアは天に召されたに違いない。
- 混沌の時代の私たちの希望の根拠は、変わらない神の約束。  
十字架で死んで復活されたイエシュア(イエス)は、再び来られる。
- ヨシュアとは、「イエシュア(主は救い)」。ヨシュアの生涯がメシアの型。  
主イエスの福音だけが救いの道。キリストの再臨だけが将来の希望。  
何度でも繰り返し、この恵みを味わい、平安を得て使命に歩もう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

世(よ)はますます混沌(こんとん)とし、闇(やみ)は深(ふか)まるばかりです。

それでもなお、一人一人には、救(すく)いの道(みち)が残(のこ)されています。

どうか、福音(ふくいん)をたずさえて、わたしを遣(つか)わしてください。

一つの魂(たましい)が救(すく)われ、

主に栄光(えいこう)が帰(き)されますように。

主の約束(やくそく)を確信(かくしん)して、今を歩(あゆ)ませてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」